

2018/9/17

柏の景気情報（平成30年8月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年8月分）

○ 調査期間 : 平成30年8月28日 ~ 平成30年9月3日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	17	38.6%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	44	24	54.5%
サービス	35	15	42.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年8月の調査結果のポイント】

《業況DIはすべての業種で改善。先行きも不透明感残すも改善の見通し》

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲30.9)となり、マイナス幅が19.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△7.1(同▲25.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.7(同▲54.5)、建設業▲5.8(同▲21.0)、サービス業±0.0(同▲14.2)である。

【建設業】からは、「お盆前に畳替えをするお客様が多く、休みがあり稼働日が少なかった割には売上高は前月比横ばい」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「夏季需要が7～8月で伸びたが、盆休み明けは落ち着いた。また、融資の長期金利は上昇傾向」(自動車付属品製造業)、「原材料値上げによる部品値上げ要求は一段落した感がある。機械系製造業がどこも好調のようで加工外注に仕事が入らない状態。LMガイド・サーボモータの品薄状態は変化なし」(機械・同部品製造業)、「柏の街は老朽化した部分と新生化している南北二極化が目立って来た。老朽化した街は古きを生かした人の居場所と成る事を思う」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「大型薬局店が商品の多様化(野菜、肉等生鮮品)で品ぞろえを強化しており極端に販売合戦が増している。スクール・事務用品関係などは9月新学期が始まり客足が増えるのを期待」(飲食料品小売業)、「ワイン原料であるブドウの生産は昨年通りであるが、日本ワインの引き合いが高まっているため原料価格は高騰している。日本ワインの小売価格が値上げしないことを願う」(飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「仕入価格上昇により採算悪化」(日本料理)、「相続物件、任意売却物件等の買取依頼が増加。高額物件条件の良い物件の売却は好調」(不動産管理業)、「そごう跡地の入居者がいないから再開発という流れを誰かが止めないと最悪な街になる。我々はしっかりと頑張っている」(不動産賃貸業)、「自然災害の恐ろしさ、特に今回の北海道地震は、インバウンドにおけるマイナスが計り知れない。また、低金利が支配する国内景気、スルガ銀行がやり玉になっているが個人を対象に利益追求の融資先マネー、土地さえあれば無造作に建設されるアパート経営は経済歯車がずれている感じ。市内「ぼったくり」アナウンスは好悪あるもマイナス効果と感ずるため、内容を一考すべき」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種より、「天候が極端なので仕事が捗らない」(土木建築工事業)、「猛暑・盆休みの影響で客先の生産性が落ちている」(自動車付属品製造業)、「高温・台風等気候による影響大きく、最悪の売上。来街者数も日中は目に見えて少ない。業界ではセールの夏物も残し気味、秋物の立ち上がりは遅くなりそう」(婦人・子供服小売業)、「猛暑により客足が非常に悪く、気温が落ち着くと一気に押し寄せるため、対応が追いつかず実質昨年より悪化、天候が安定しないと昨年を大きく下回る恐れ有り、これからの天気次第」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「気温高で秋物が不振と生鮮の原価高が続く」(各種商品小売業)、「先月同様、酷暑のため日中の来客が少なく厳しい状況」(菓子・パン小売業)、「猛暑により酒全体が売れなかった。特に白ワインやフルーツワインの需要が高まるシーズンであったが、昨年実績を下回った」(飲料卸売業)、「猛暑のせいか生ケーキの売上減」(菓子・パン小売業)、「大型店の特売チラシと暑さとの影響で客足が鈍く、また客足の引けるのが早い。飲料水(飲み物)の動きは活発だがそのほかは客単価も低調」(飲食料品小売業)、「猛暑の為、来客数は減少」(不動産管理業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「採用面は、数か月前に比べて人材がいくらか流動的になり、求人に対する応募が多少出てきた」(自動車付属品製造業)、「採用を進めるが応募が極めて少ない」(各種商品小売業)、「人手不足と運賃値上げ等で9月より商品値上げが激増。また、仕入金額による送料を割り引くスライド方式が増えている。例:30,000→送料1,000円→90,000円→送料無料」(飲食料品小売業)、「人手不足からか人件費が高騰している」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲11.4	▲11.1	±0.0	▲26.0	±0.0
4月	▲12.8	△5.2	△7.6	▲34.7	▲20.0
5月	▲9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲6.6
6月	▲21.1	±0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
7月	▲30.9	▲21.0	▲25.0	▲54.5	▲14.2
8月	▲11.4	▲5.8	△7.1	▲34.7	±0.0
見通し	▲8.5	▲5.8	△14.2	▲26.0	▲6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲30.9)となり、マイナス幅が19.5ポイント縮小した。

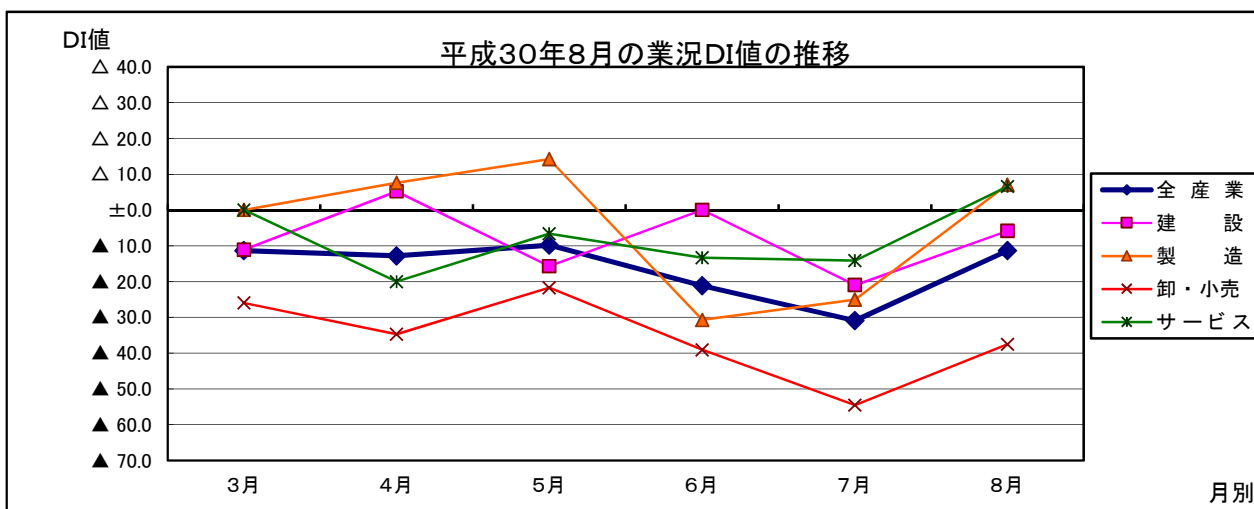
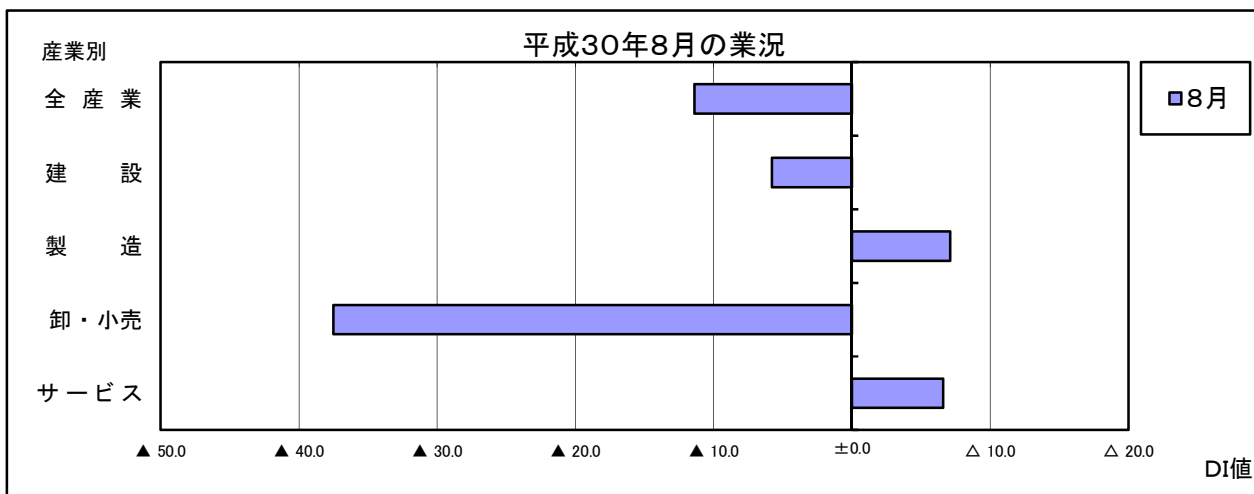
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△7.1(同▲25.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.7(同▲54.5)、建設業▲5.8(同▲21.0)、サービス業±0.0(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が11.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△14.2(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲21.4)、卸小売業▲26.0(同▲36.3)、建設業▲5.8(同▲15.7)である。

平成30年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲11.4	▲12.8	▲9.8	▲21.1	▲30.9	▲11.4	▲8.5(▲19.7)
建設	▲11.1	△5.2	▲15.7	±0.0	▲21.0	▲5.8	▲5.8(▲15.7)
製造	±0.0	△7.6	△14.2	▲30.7	▲25.0	△7.1	△14.2(±0.0)
卸・小売	▲26.0	▲34.7	▲21.7	▲39.1	▲54.5	▲37.5	▲29.1(▲36.3)
サービス	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲13.3	▲14.2	△6.6	±0.0(▲21.4)



【平成30年8月の売上についての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が11.1ポイント縮小した。

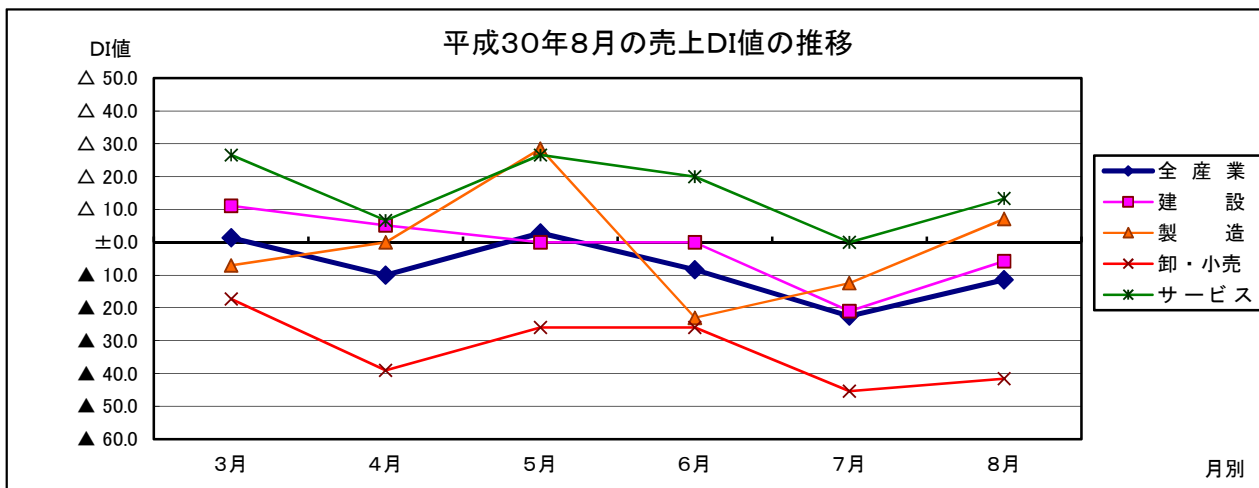
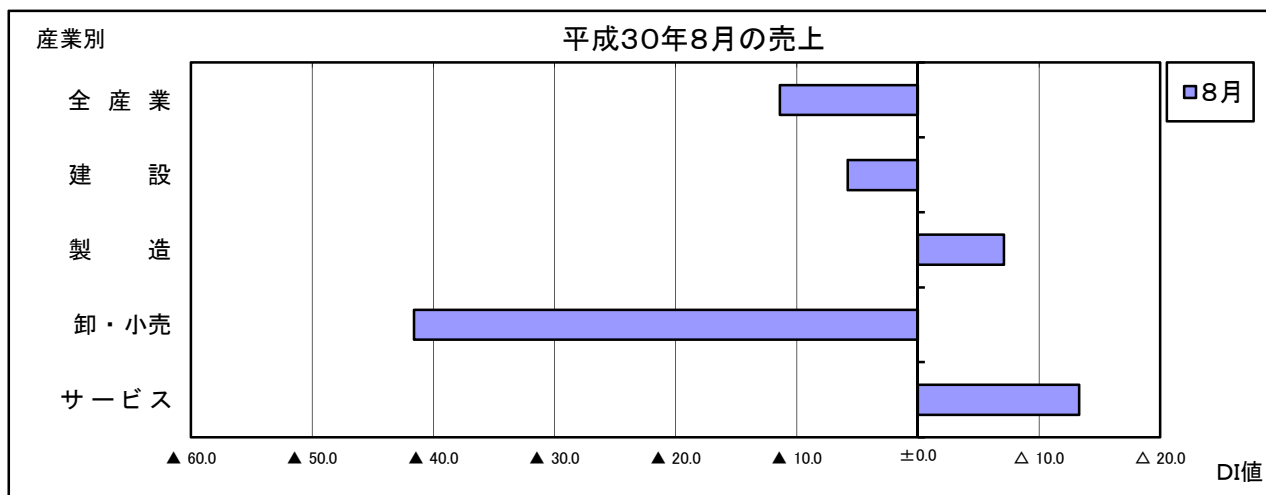
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△12.5(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△7.1(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.8(同▲21.0)、卸小売業▲43.4(同▲45.4)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が11.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△28.5(同△6.2)、サービス業△12.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲21.7(同▲36.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲5.8(同▲5.2)である。

平成30年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△1.4	▲10.0	△2.8	▲8.4	▲22.5	▲11.4	±0.0(▲11.2)
建設	△11.1	△5.2	±0.0	±0.0	▲21.0	▲5.8	▲5.8(▲5.2)
製造	▲7.1	±0.0	△28.5	▲23.0	▲12.5	△7.1	△28.5(△6.2)
卸・小売	▲17.3	▲39.1	▲26.0	▲26.0	▲45.4	▲41.6	▲20.8(▲36.3)
サービス	△26.6	△6.6	△26.6	△20.0	±0.0	△13.3	△13.3(±0.0)



【平成30年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.7(前月水準▲32.3)となり、マイナス幅は16.6ポイント縮小した。

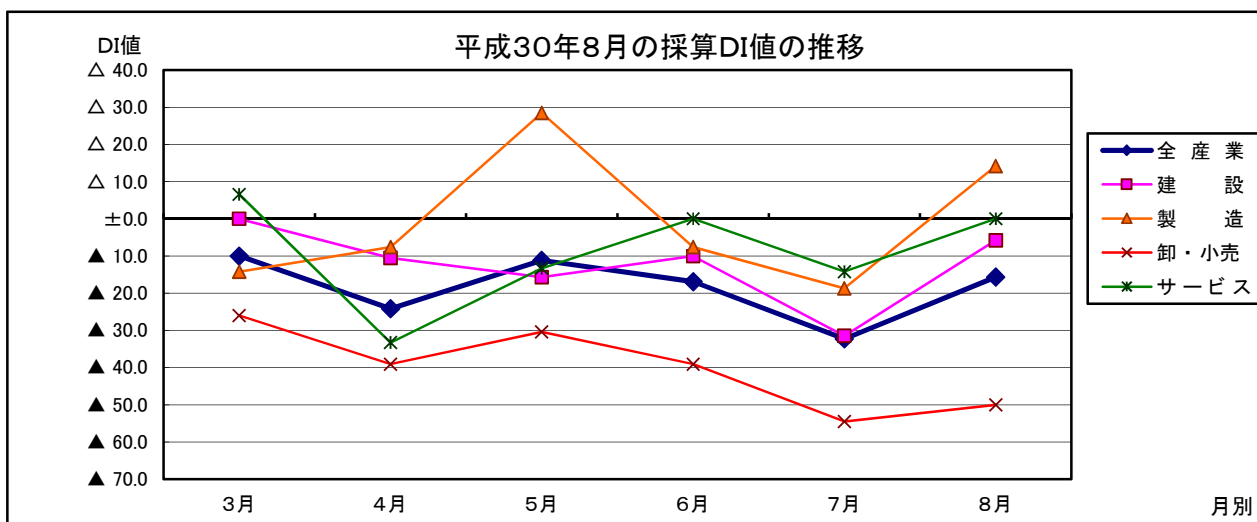
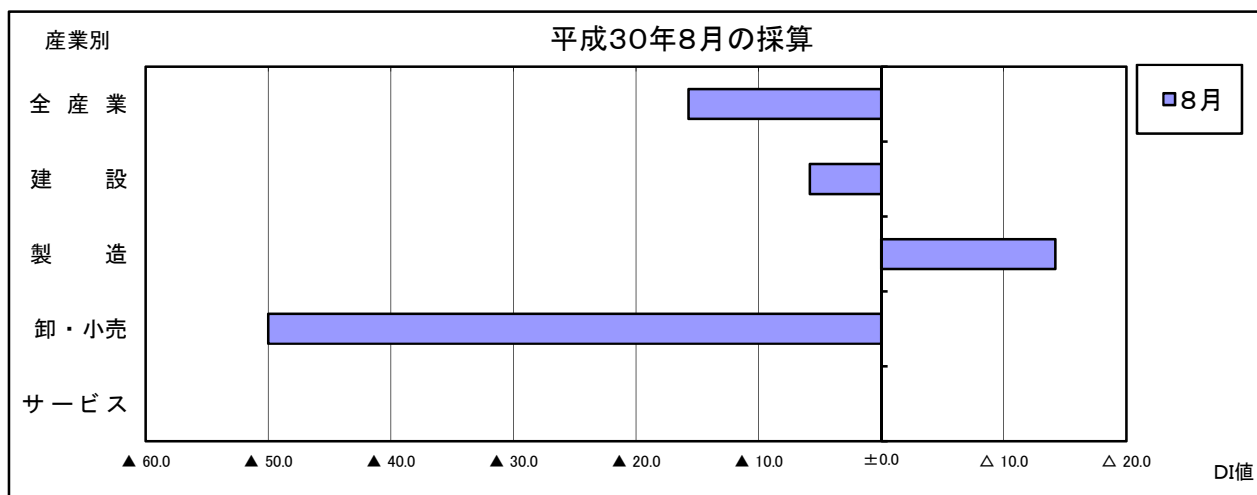
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△14.2(同▲18.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.8(同▲31.5)、サービス業▲6.2(同▲14.2)、卸小売業▲47.8(同▲54.5)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲15.4)であり、マイナス幅が6.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△21.4(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲26.0(同▲40.9)、サービス業▲6.2(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲11.7(同±0.0)である。

平成30年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲10.0	▲24.2	▲11.2	▲16.9	▲32.3	▲15.7	▲8.5(▲15.4)
建設	±0.0	▲10.5	▲15.7	▲10.0	▲31.5	▲5.8	▲11.7(±0.0)
製造	▲14.2	▲7.6	△28.5	▲7.6	▲18.7	△14.2	△21.4(±0.0)
卸・小売	▲26.0	▲39.1	▲30.4	▲39.1	▲54.5	▲50.0	▲29.1(▲40.9)
サービス	△6.6	▲33.3	▲13.3	±0.0	▲14.2	±0.0	±0.0(▲14.2)



【平成30年8月の仕入単価についての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.4(前月水準▲35.2)となり、マイナス幅が3.8ポイント縮小した。

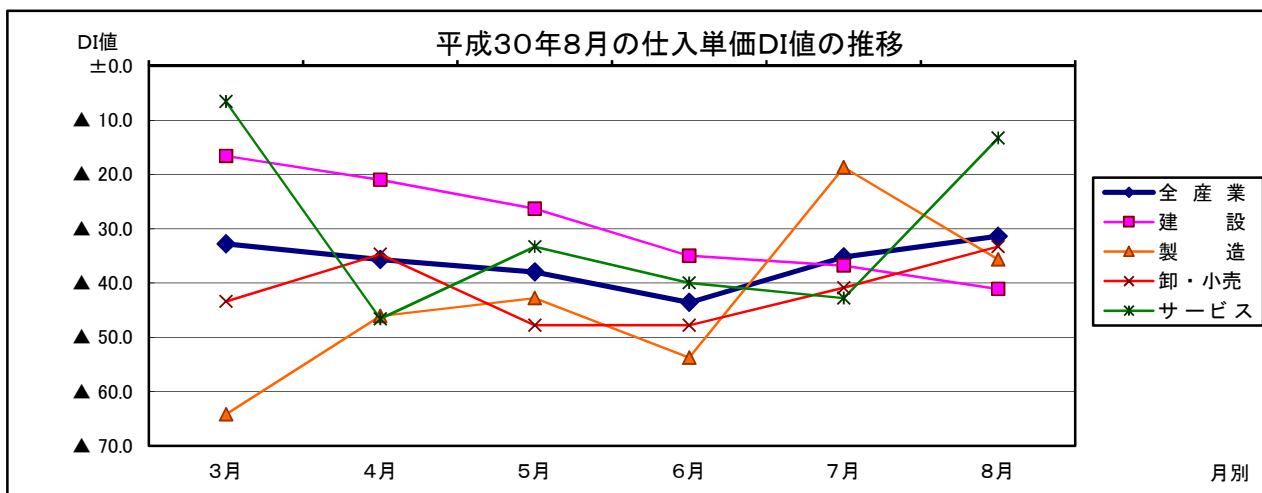
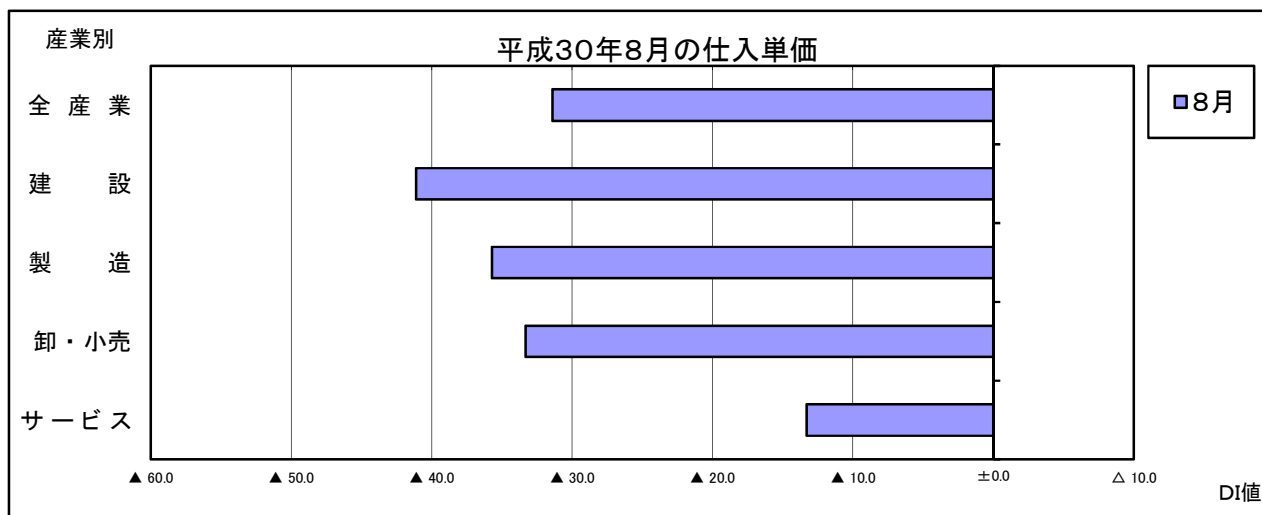
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲42.8)、卸小売業▲30.4(同▲40.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.7(同▲18.7)、建設業▲41.1(同▲36.8)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.1(前月水準▲42.2)となり、マイナス幅が15.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲26.0(同▲50.0)、サービス業▲18.7(同▲35.7)、製造業▲28.5(同▲37.5)、建設業▲35.2(同▲42.1)である。

平成30年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲32.8	▲35.7	▲38.0	▲43.6	▲35.2	▲31.4	▲27.1(▲42.2)
建設	▲16.6	▲21.0	▲26.3	▲35.0	▲36.8	▲41.1	▲35.2(▲42.1)
製造	▲64.2	▲46.1	▲42.8	▲53.8	▲18.7	▲35.7	▲28.5(▲37.5)
卸・小売	▲43.4	▲34.7	▲47.8	▲47.8	▲40.9	▲33.3	▲29.1(▲50.0)
サービス	▲6.6	▲46.6	▲33.3	▲40.0	▲42.8	▲13.3	▲13.3(▲35.7)



【平成30年8月の従業員についての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△17.1(前月水準△19.7)となり、プラス幅が2.6ポイント縮小した。

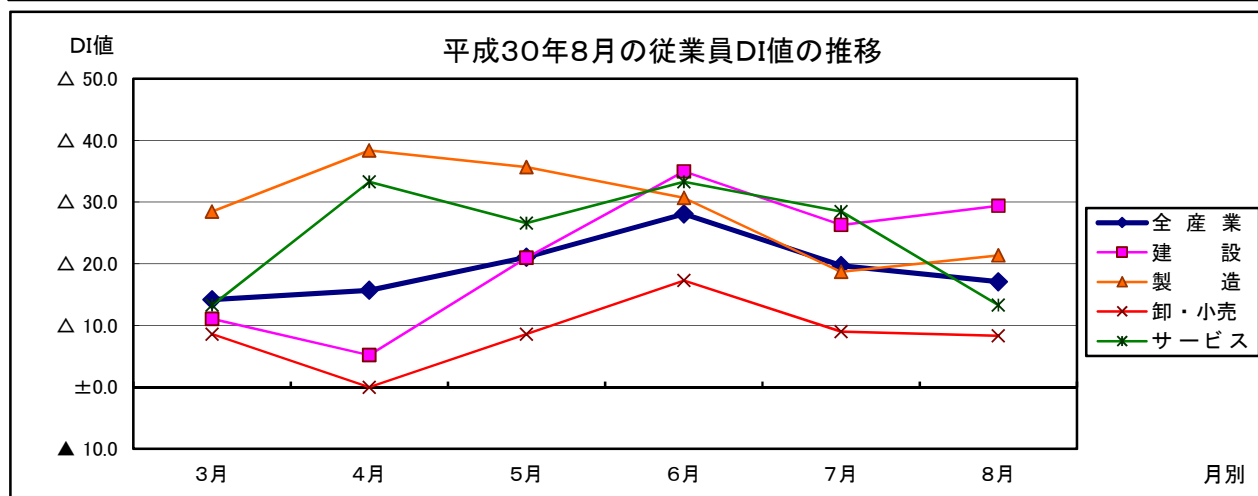
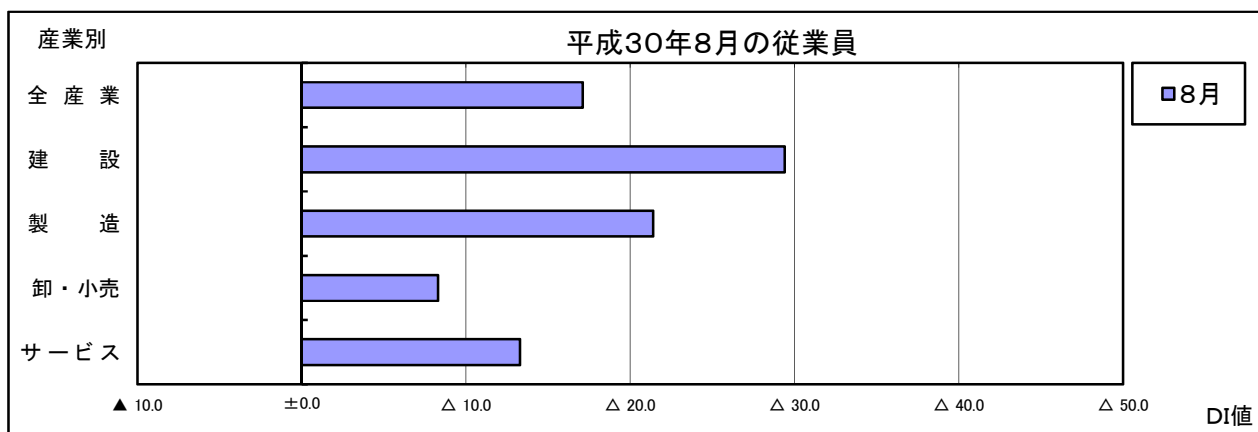
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△29.4(同△26.3)、製造業△21.4(同△18.7)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△12.5(同△28.5)、卸小売業△8.6(同△9.0)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.5(前月水準△21.1)となり、プラス幅が2.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△35.2(同△21.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△14.2(同△25.0)、サービス業△18.7(同△28.5)、卸小売業△8.6(同△13.6)である。

平成30年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△14.2	△15.7	△21.1	△28.1	△19.7	△17.1	△18.5(△21.1)
建設	△11.1	△5.2	△21.0	△35.0	△26.3	△29.4	△35.2(△21.0)
製造	△28.5	△38.4	△35.7	△30.7	△18.7	△21.4	△14.2(△25.0)
卸・小売	△8.6	±0.0	△8.6	△17.3	△9.0	△8.3	△12.5(△13.6)
サービス	△13.3	△33.3	△26.6	△33.3	△28.5	△13.3	△13.3(△28.5)



【平成30年8月の資金繰りについての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.1(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が9.8ポイント縮小した。

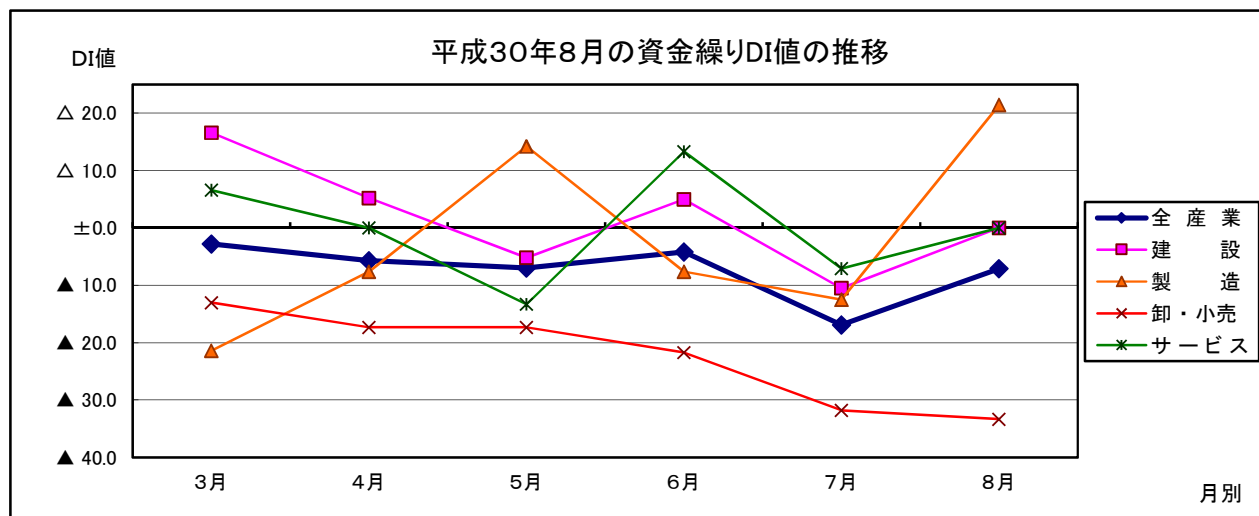
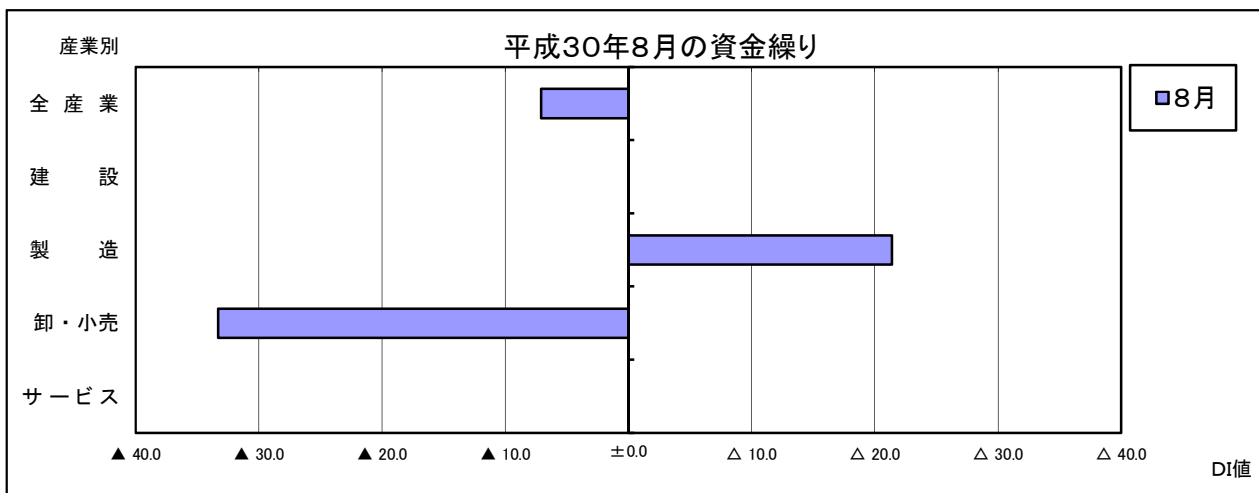
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△21.4(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲10.5)、卸小売業▲30.4(同▲31.8)、サービス業▲6.2(同▲7.1)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.4(前月水準▲15.4)となり、マイナス幅が14.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△14.2(同△6.2)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△11.7(同▲15.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.3(同▲36.3)、サービス業▲6.2(同▲7.1)である。

平成30年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲2.8	▲5.7	▲7.0	▲4.2	▲16.9	▲7.1	▲1.4(▲15.4)
建設	△16.6	△5.2	▲5.2	△5.0	▲10.5	±0.0	△11.7(▲15.7)
製造	▲21.4	▲7.6	△14.2	▲7.6	▲12.5	△21.4	△14.2(△6.2)
卸・小売	▲13.0	▲17.3	▲17.3	▲21.7	▲31.8	▲33.3	▲20.8(▲36.3)
サービス	△6.6	±0.0	▲13.3	△13.3	▲7.1	±0.0	±0.0(▲7.1)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.4	±0.0	▲ 15.7	▲ 8.5	▲ 31.4	▲ 27.1	△ 17.1	△ 18.5
建設	▲ 5.8	▲ 5.8	▲ 5.8	▲ 11.7	▲ 41.1	▲ 35.2	△ 29.4	△ 35.2
製造	△ 7.1	△ 28.5	△ 14.2	△ 21.4	▲ 35.7	▲ 28.5	△ 21.4	△ 14.2
卸・小売	▲ 41.6	▲ 20.8	▲ 50.0	▲ 29.1	▲ 33.3	▲ 29.1	△ 8.3	△ 12.5
サービス	△ 13.3	△ 13.3	±0.0	±0.0	▲ 13.3	▲ 13.3	△ 13.3	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.4	▲ 8.5	▲ 7.1	▲ 1.4
建設	▲ 5.8	▲ 5.8	±0.0	△ 11.7
製造	△ 7.1	△ 14.2	△ 21.4	△ 14.2
卸・小売	▲ 37.5	▲ 29.1	▲ 33.3	▲ 20.8
サービス	△ 6.6	±0.0	±0.0	±0.0

【平成30年7月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	天候が極端なので仕事はかどらない。	天候の影響	一般土木建築工事業
	お盆前に畳替えをというお客様が多く、休みがあり稼働日が少なかった割には売上高は前月比横ばい。	前年比同	内装工事業
製造業	猛暑・盆休みの影響で客先の生産性が落ちている。夏季需要が7・8月で伸びたが盆休み明けは落ち着いてきている。融資の長期金利は上昇傾向にある。採用面では数か月前に比べて、人材がいくらか流動的になり求人に対する応募が多少出てきた。	天候の影響 季節商品 金利上昇 人手不足解消	自動車付属品製造業
	原材料の値上げによる部品の値上げ要求は一段落した感がある。機械系製造業がどこも好調のよう加工外注に仕事が入らない状態が続いている。LMガイド・サーボモータの品薄状態は変化なし。	仕入上昇 業界好調 材料品薄	その他の機械・同部品製造業
	柏の街は老朽化した部分と新生化している南北二極化が目立って来た。老朽化した街は古きを生かした人の居場所と成る事を思う。	街の二極化	印刷業
卸小売	高温・台風等気候による影響大きく、最悪の売上。来街者数も日中は目に見えて少ない。業界ではセールの夏物も残り気味、秋物の立ち上がりは遅くなりそう。	天候の影響	婦人・子供服小売業
	猛暑により客足非常に悪く、気温が落ち着くと一気に押し寄せるため、対応が追いつかず実質昨年より悪化、天候が安定しないと昨年を大きく下回る恐れ有り、これからの天気次第。	天候の影響	時計・眼鏡・光学機械小売業
	採用を進めるが応募が極めて少ない。気温高で秋物が不振と生鮮の原価高が続く。	人手不足 天候の影響	その他の各種商品小売業
	先月同様、酷暑のため日中の来客が少なく厳しい状況が続く。	天候の影響	菓子・パン小売業
	猛暑により酒全体が売れなかった。特に白ワインやフルーツワインの需要が高まるシーズンであったが、昨年実績を下回った。猛暑であったが、ワイン原料であるブドウの生産は昨年通りであるが、日本ワインの引き合いが高まっているため原料価格は高騰している。日本ワインの小売価格が値上げしないことを願う。	天候の影響 仕入高騰	食料・飲料卸売業
	猛暑のせいか生ケーキの売上減。	天候の影響	菓子・パン小売業
サービス業	仕入価格上昇により採算悪化。	仕入上昇 採算悪化	日本料理
	大型店の特売チラシと暑さとの影響で客足が鈍い。また客足の引けるのが早い。特に薬局店が商品の多様化(野菜、肉等生鮮品)で品ぞろえを強化しており極端に販売合戦が増している感がある。飲料水(飲み物)の動きは活発だがそのほかは客単価も低調。人手不足と運賃の値上げ等で9月より商品の値上げが激増と仕入金額による送料を割り引くスライド方式が増えている。例:30,000→送料1,000円・90,000円→送料無料。スクール関係として9月新学期が始まり客足が増えるのを期待。	大型店の影響 天候の影響 飲料好調 客単価減 仕入高騰	その他の飲食料品小売業
	猛暑の為、来客数は減少。相続物件、任意売却物件等の買取依頼が増加しています。高額物件条件の良い物件の売却は好調です。	天候の影響 買取増加 売却好調	不動産管理業
	そごうに入居者がいないから再開発というトップの暴走を誰かが止めないと最悪な街になります。しっかりと我々は頑張っているのに足を引っ張るのはやめてほしい。	そごう	不動産賃貸業
	人手不足からか人件費が高騰している。	人手不足	ソフトウェア業
自然災害の恐ろしさ、今回の北海道地震。インバウンドにおけるマイナスは計り知れない。また、低金利が支配する国内景気、スルガ銀行がやり玉になっているが個人を対象に利益追求の融資先マネー、土地さえあれば無造作に建設されるアパート経営は経済歯車がずれている感じ。トランプの車関税で益々赤字拡大に。10年160兆円減税、倫理的整合性は？赤字拡大へ。市内「ぼったくり」アナンサー好悪あるもマイナス効果と感じる。内容を一考すべき。逆に商工会議所で明るい話題を駅前で行ったら市内景気は上向きに。	天候の影響 北海道地震	投資顧問	

◎天候の影響

各業種より、「天候が極端なので仕事が捗らない」(土木建築工事業)、「猛暑・盆休みの影響で客先の生産性が落ちている」(自動車付属品製造業)、「高温・台風等気候による影響大きく、最悪の売上。来街者数も日中は目に見えて少ない。業界ではセールの夏物も残し気味、秋物の立ち上がりは遅くなりそう」(婦人・子供服小売業)、「猛暑により客足が非常に悪く、気温が落ち着くと一気に押し寄せるため、対応が追い付かず実質昨年より悪化、天候が安定しないと昨年を大きく下回る恐れ有り、これからの天気次第」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「気温高で秋物が不振と生鮮の原価高が続く」(各種商品小売業)、「先月同様、酷暑のため日中の来客が少なく厳しい状況」(菓子・パン小売業)、「猛暑により酒全体が売れなかった。特に白ワインやフルーツワインの需要が高まるシーズンであったが、昨年実績を下回った」(飲料卸売業)、「猛暑のせいか生ケーキの売上減」(菓子・パン小売業)、「大型店の特売チラシと暑さとの影響で客足が鈍く、また客足の引けるのが早い。飲料水(飲み物)の動きは活発だがそのほかは客単価も低調」(飲食料品小売業)、「猛暑の為、来客数は減少」(不動産管理業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「採用面は、数か月前に比べて人材がいくらか流動的になり、求人に対する応募が多少出てきた」(自動車付属品製造業)、「採用を進めるが応募が極めて少ない」(各種商品小売業)、「人手不足と運賃値上げ等で9月より商品値上げが激増。また、仕入金額による送料を割り引くスライド方式が増えている。例:30,000→送料1,000円・90,000円→送料無料」(飲食料品小売業)、「人手不足からか人件費が高騰している」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。











平成30年8月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI-LOBO」が▲14.8で柏の方がマイナス幅が3.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI-LOBO」が▲9.0で柏の方がマイナス幅が2.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲14.7で柏の方がマイナス幅が1.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.4に対し、「CCI-LOBO」が▲43.0で柏の方がマイナス幅が11.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業・サービス業であり、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△17.1に対し、「CCI-LOBO」が△24.3で柏の方がプラス幅が7.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業であり、卸小売業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.1に対し、「CCI-LOBO」が▲9.0で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。











平成30年8月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.4	 ▲ 5.8	 7.1	 ▲ 37.5	 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 14.8	 ▲ 8.1	 ▲ 11.4	 ▲ 27.7	 ▲ 11.7


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.4	 ▲ 5.8	 7.1	 ▲ 41.6	 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 9.0	 ▲ 10.2	 ▲ 2.9	 ▲ 23.2	 ▲ 5.1


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.7	 ▲ 5.8	 14.2	 ▲ 50.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 14.7	 ▲ 13.7	 ▲ 10.6	 ▲ 21.7	 ▲ 16.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 31.4	 ▲ 41.1	 ▲ 35.7	 ▲ 33.3	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 43.0	 ▲ 42.5	 ▲ 48.0	 ▲ 37.4	 ▲ 43.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.1	 29.4	 21.4	 8.3	 13.3
CCI-LOBO	 24.3	 34.2	 18.8	 21.9	 29.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 7.1	 ±0.0	 21.4	 ▲ 33.3	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 9.0	 ▲ 5.6	 ▲ 7.7	 ▲ 16.2	 ▲ 9.4

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(8月速報)

調査期間：平成30年8月16日～22日

調査対象：全国の423商工会議所が3741企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

**業況DIは、改善も力強さ
欠く。先行きは不透明感残り、
横ばい圏内の動き**

8月の全産業合計の業況DIは、▲14.8と、前月から+1.9ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。建設業や電子部品、産業用機械、自動車関連の堅調な動きが続く

ほか、インバウンドを含めた夏休みの観光需要が好調に推移した。また、記録的な猛暑に伴い、飲料や夏物商材の需要が拡大する一方、客足減少や農産物の生育不良による価格上昇を指摘する声も聞かれた。燃料費や原材料費の上昇による負担増や深刻な人手不足、根強い消費者の節約志向が依然として中小企業の足かせとなっており、業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲14.4（今月比+0.4ポイント）とほぼ横ばいを見込む。消費の持ち直しやインバウンドを含

む観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、燃料費・原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、米国の保護主義的な関税措置に端を発する貿易摩擦の影響など、世界経済の不透明感を懸念する声も多く、中小企業の業況感には横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業でほぼ横ばい、その他の4業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「オフィスビル建設などの再開発関連工事が多く、売上は改善。だが、需給の逼迫から、鉄鋼など一部の建設資材の納品に遅れが生じ、工期を延長せざるを得ない」（一般工事業）、「技術者を中心とする人手不足と従業員の高齢化が深刻なため、

賃金や労働環境の改善を進め、若年層の募集に力を入れているが、全く応募が無く、厳しい状況が続いている」（土木工事業）

【製造業】「中国への自動車輸出が好調なため、部品の引き合いも増えている。しかしながら、米中の貿易摩擦やトルコ通貨の急落に端を発した『トルコショック』など、先行きの不安要素は多い」（自動車部品製造業）、「原油高や、欧米を中心とする需要増を背景に、ナフサ価格が高騰している。販売先に対して価格転嫁交渉を行っているが、難航しており、収益の確保が難しい」（化学製品製造業）

【卸売業】「インバウンドの増加を背景に、卸先の建設業で宿泊施設の建設・改装工事が多く、受注は好調。だが、鉄鋼・木材などの資材価格が上昇しており、採算の確保に苦戦している」（建設資材卸売業）、「3月以降の記録的な猛暑や台風の影響で、農産物の生産量が減少し、価格が高騰している。高値により消費者の購買意欲

が減退すれば、売上悪化は避けられない」（農産物卸売業）

【小売業】「夏の観光シーズンに入り、インバウンドの来店数は増加。更なる売上増を目的に、キャッシュレス決済端末や自動外貨両替機を導入した」（百貨店）、「消費者の節約志向が根強いことに加え、記録的な猛暑や台風の影響から客数が減少した。特に、主要客層である高齢者の来店が激減している」（衣料品小売業）

【サービス業】「飲料やエアコンなどの夏物商材の荷動きが活発化しているほか、西日本豪雨の被害で鉄道貨物が運休していることから、代替手段としての輸送需要も急増している。だが、ドライバー不足により受けられない依頼も多い」（運送業）、「猛暑の影響で客足が鈍いことに加え、キャベツを始めとする農産物や、水産物などの価格高騰で、売上・採算ともに悪化した」

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲15.8	▲13.5	▲6.1	▲18.8	▲26.9	▲16.3
4月	▲11.5	▲13.1	0.5	▲18.3	▲25.7	▲7.6
5月	▲13.6	▲14.8	▲5.8	▲19.4	▲26.5	▲7.6
6月	▲15.4	▲10.1	▲6.5	▲17.1	▲32.3	▲12.8
7月	▲16.7	▲11.5	▲11.5	▲18.8	▲29.0	▲13.6
8月	▲14.8	▲8.1	▲11.4	▲16.1	▲27.7	▲11.7
見通し	▲14.4	▲9.0	▲12.0	▲12.4	▲25.4	▲12.1

柏の景気情報

(8月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年8月28日～9月3日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲11.4	▲11.1	± 0.0	▲26.0	± 0.0
4月	▲12.8	△ 5.2	△ 7.6	▲34.7	▲20.0
5月	▲ 9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲ 6.6
6月	▲21.1	± 0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
7月	▲30.9	▲21.0	▲25.0	▲54.5	▲14.2
8月	▲11.4	▲ 5.8	△ 7.1	▲34.7	± 0.0
見通し	▲ 8.5	▲ 5.8	△14.2	▲26.0	▲ 6.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iはすべての業種で改善。先行きも不透明感の残すも改善の見通し

8月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲11.4(前月水準▲30.9)となり、マイナス幅が19.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業▲7.1(同▲25.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.7(同▲54.5)、建

設業▲5.8(同▲21.0)、サービス業±0.0(同▲14.2)である。

【建設業】からは、「お盆前に畳替えをするお客様が多かった割には売上高は前月比横ばい」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「夏季需要が7～8月で伸びたが、盆休み明けは落ち着いた。また、融資の長期金利は上昇傾向」(自動車付属品製造業)、「原材料値上げによる部品値上げ要求は一段落した感がある。機械系製造業がどこも好調のよう加工外注に仕事が入らない状態。LMガイド・サーボモータの品薄状態は変化なし」(機械・同部品製造業)、「柏の街は老朽化した部分と新生化している南北二極化が目立ってきた。老朽化した街は古きを生かした人の居場所と成る事を思う」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「大型薬局店が商品の多様化(野菜・肉等生鮮品)で品ぞろえを強化しており極端に販売合戦が増している。スクール・事務用品関係などは9月新学期が始まり客足が増えるのを期待」(飲食料品小売業)、「ワイン

原料であるブドウの生産は昨年通りであるが、日本ワインの引き合いが高まっているため原料価格は高騰している。日本ワインの小売価格が値上げしないことを願う」(飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「仕入価格上昇により採算悪化」(日本料理)、「相続物件・任意売却物件等の買取依頼が増加。高額物件条件の良い物件の売却は好調」(不動産管理業)、「そこ跡地の入居者がいないから再開発という流れを誰かが止めないと最悪な街になる。我々はしつかりと頑張っている」(不動産賃貸業)、「自然災害の恐ろしさ、特に今回の北海道地震は、インバウンドにおけるマイナスが計り知れない。また、低金利が支配する国内景気、スルガ銀行がやり玉になっっているが個人を対象に利益追求の融資先マネー、土地さえあれば無造作に建設されるアパート経営は経済歯車がずれている感じ。

市内「ぼったくり」アナウンスは好悪あるもマイナス効果と感ずるため、内容を一考すべき」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種より、「天候が極端なので仕事が捗らない」(土木建築工事業)、「猛暑・盆休みの影響で客先の生産性が落ちてくる」(自動車付属品製造業)、「高温・台風等気候による影響大きく、最悪の売上。来街者数も日中は目に見えて少ない。業界ではセールの夏物も残り気味、秋物の立ち上がりは遅くなりそう」(婦人・子供服小売業)、「猛暑により客足が非常に悪く、気温が落ち着くと一気に押し寄せるため、対応が追い付かず実質昨年より悪化、天候が安定しないと昨年を大きく下回る恐れ有り、これからの天気次第」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「気温高で秋物が不振と生鮮の原価高が続く」(各種商品小売業)、「先月同様、酷暑のため日中の来客が少なく厳しい状況」(菓子・パン小売業)、「猛暑により酒全体が売れなかつた。特に白ワインやフルーツワインの需要が高まるシーズンであったが、昨年実績を下回った」(飲料卸売業)、「猛暑のせいか生ケーキの売上減」(菓子・パン小売業)、「大型店の特売チラシと暑さとの影響で客足が鈍く、また客足の引けるのが早い。飲料水(飲み物)の動きは活発だがそのほかは客単価も低調」(飲食料品小売業)、「猛暑の

為、来客数は減少」(不動産管理業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「採用面は、数か月前に比べて人材がいくらか流動的になり、求人に対する応募が多少出てきた」(自動車付属品製造業)、「採用を進めるが応募が極めて少ない」(各種商品小売業)、「人手不足と運賃値上げ等で9月より商品値上げが激増。また、仕入金額による送料を割り引くスライド方式が増えている。例：三万→送料千円・九万円→送料無料」(飲食料品小売業)、「人手不足からか人件費が高騰している」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-TOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI-TOBO」が▲14.8で柏の方がマイナス幅が3.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

七月の景気キーワード

「飲食料品小売業」、「ワイン

「飲食料品小売業」、「猛暑の